

新入生支援活動記録



平成21年5月

あおば学校支援ネットワーク

目次

I はじめに.....	2
II 活動について.....	2
(1) 趣旨.....	2
(2) 日程.....	2
(3) 主な活動内容.....	3
III 実践記録.....	3
IV意見・感想(意見交換会等より).....	5
(1) ボランティアから.....	5
(2) 校長先生から.....	6
(3) コーディネーターから(活動総括).....	6
V 省察.....	7

I はじめに

「あおば学校支援ネットワーク(ASN)」は、学校・教育支援活動に関わるボランティアと学校をつなぐコーディネーターのネットワークとして、子どもたちの視点にたったより良い学校教育活動を支援することを目的に活動しています。学校教育に関して、ボランティアの紹介、プログラムの提案、情報提供などを行い、あわせてボランティア養成・スキルアップ等の講座を、年間を通じて開催しています。

新入生支援活動は年々実施校が増えて、需要と供給のアンバランスを心配する声を内外に聞きつつ21年度の活動を実施し、無事終了を迎えました。活動を振り返り、次年度のよりよい活動につなげたいと思います。ご支援くださいました方々に深く感謝申し上げます。

II 活動について

(1) 趣旨

平成18年度より始まった小学校新一年生の入門期におけるクラス支援ボランティア活動は、今年で4年目を迎えた。本活動は、各学級に配置された教育ボランティアが学級担任を補助することで、一年生が学校生活を円滑に過ごせるようにすることを目的に行っている。入学したばかりで学校生活に不安を抱える児童にとって、この大切な時期に担任とともに補助的な役割をもつボランティアが存在することで、児童一人ひとりが早く学校生活に慣れ、安心して学校生活を送れるようなサポートをしている。

(2) 日程

① 教育ボランティアに対する説明会と研修会

日時：平成21年3月24日 10時～12時

会場：あざみ野アートフォーラム セミナールーム

参加者数：25人

内容：今年度の対象校4校における活動要項(具体的な活動内容、日程)、加入すべき保険などの説明と当活動におけるボランティアとしての留意事項などの研修を行った。

② 実施日

荏子田小学校 平成21年4月7日から5月 8日まで

みたけ台小学校 平成21年4月9日から5月 1日まで

谷本小学校 平成21年4月7日から4月17日まで

美しが丘東小学校 平成21年4月7日から4月30日まで

③ 意見交換会

日時：平成21年5月14日 10時～12時

会場：ビオラ市ヶ尾

参加者数：24人

内容：活動を終えて、ボランティア・コーディネーター・学校の三者が感想と意見を交換し、次年度への提言とした。

(3) 主な活動内容

① 生活支援

始業までの準備補助、トイレや保健室への付き添い、教室移動時の引率補助など

② 学習支援

授業中の指導補助や声掛けなど

③ 給食支援

給食配膳や片付けなどの補助活動

④ その他の支援

保健行事や体力測定などの補助

Ⅲ 実践記録

ボランティアによる日々の記録を整理すると、児童をあたたく見守り、時には声をかけて学校生活を応援するボランティアの姿がクローズアップされ、担任とは異なる役割をもって学級に存在していたことがわかる。また、活動記録には具体的な活動報告以外にも、気を配る必要があった児童の様子、ボランティアの視点で気がつき担任に伝えたいこと、児童の成長を喜ぶ声など、様々な感想が書き込まれた。(以下、活動記録に掲載されたものを抜粋)

① 生活支援

支援

- ・ 始業前に持ち物の整理の手伝いをした。
- ・ 身の回りのことがスムーズにできない児童の手伝いをした。
- ・ 体操服への着替えの見守りや手伝いをした。

声掛け

- ・ 連絡帳の提出に戸惑っている児童へ声掛けをした。
- ・ 指示が行き渡らず戸惑っている児童へ声掛けをした。
- ・ 白衣の着脱の練習で時間のかかる児童へ声掛けをした。
- ・ 中休みに一人になりがちな児童に声掛けをしたり一緒にいたりした。
- ・ 空のランドセルで帰ろうとした児童に声掛けをした。
- ・ 下校班に集合しない児童に声掛けをした。

見守り・付き添い

- ・ 具合が悪くなった児童を保健室へ連れて行った。
- ・ トイレへ付き添った。
- ・ 休み時間に校庭で見守りをしたり遊び相手になったりした。
- ・ 教員が付き添わないと使えないルールの滑り台に付き添った。
- ・ けんかなどが子ども同士で解決できるように見守った。
- ・ 気落ちした様子の児童が落ち着くまでそばにいた。
- ・ 下校時の見守りや付き添いをした。
- ・ 下校途中でけがをした児童の対応をした。

指導

- ・ 防災頭巾のしまい方を教えた。
- ・ 校内で移動するときに引率の補助をした。
- ・ 危険な場所で遊んでいる児童に注意をした。
- ・ 言葉遣いがひどいときに注意をした。

② 学習支援

支援

- ・ 担任の合図で自由帳を忘れた児童に紙を配った。
- ・ 席を回ってノート等の記入の確認をした。
- ・ 文字のバランスに気をつけて字が書けるように励ました。

声掛け

- ・ 授業中に気が散っている子に声を掛けたり、手を握ったりして集中させた。
- ・ 教科書を開いていない児童に声掛けをした。
- ・ 仲間入りの活動で迷っている児童に働きかけた。
- ・ 上手にできていること、一生懸命取り組んでいることをほめた。
- ・ 立ち歩いたりおしゃべりをしたりしている児童に声を掛けた。
- ・ 教室を出ようとする児童に対応した。

見守り・付き添い

- ・ 担任と反対側に立つようにして児童に目を配った。
- ・ 公園へ出かけたとき見守りをした。

③ 給食支援

支援

- ・ 給食準備や配膳の手伝いをした。

声掛け

- ・ 給食を残しがちな児童に少しずつ食べるように勧めた。
- ・ 時間内に給食が食べられるように声掛けをした。

④ その他の支援

支援

- ・ 担任と別行動のときに昔話を語って過ごした。
- ・ 体力測定記録を手伝った。
- ・ 体力測定を担当する6年生のサポートをした。
- ・ 返却物や配布物の確認をした。
- ・ 机の並べ換えの手伝いをした。

見守り・付き添い

- ・ 健康診断から戻った児童にひらがな練習の見守りをした。

IV意見・感想(意見交換会等より)

(1) ボランティアから

①学校との連携体制について

- ・ 顔合わせの際の打ち合わせで、学校側の態勢や子どもたちの状況をよく理解できた。
- ・ 朝の打ち合わせ、記録ノートの確認、放課後の反省会で、全般的によく把握できた。
- ・ 先生からいただく授業に関するメモが大変有効で、確認をしながらスムーズな支援ができた。
- ・ 先生の指示が具体的だったので活動しやすかった。
- ・ 校外学習や健診で忙しい日は、打ち合わせが不十分で支援方法がわからなかった。
- ・ 活動経験があったので、タイミングを見計らって先生と話をすることができた。
- ・ 放課後に、気になるお子さんのこと、苦労していることなどを先生方に伝えることができた。
- ・ ノートに記録した感想や伝えたいことに対して、コメントをいただけたことが良かった。
- ・ 担任の先生と始業前や放課後にもう少し話せる時間があるとよいと思った。
- ・ 全日程の終了後に先生方と茶話会などのコミュニケーションの場があるとよかったと思う。

②児童の様子

- ・ 入学当初の子どもたちは不安を持っていたということに後で気づいた。
- ・ 初めはおとなしかった子どもが2週間後には学校に溶け込んでいた。
- ・ 保健室に行く子どもたちが多かったが、保健室で体温を測ると気が済む様子だった。
- ・ 1、2週間で給食の補助も要らなくなり、子どもたちのコミュニケーションも良くなってきた。

③児童とのかかわりについて

- ・ 名前を覚えると、子どもたちのことが把握できるようになった。
- ・ 子どもたちの不安に気づき、初めの時期にもっと声掛けをしたら良かったと思う。
- ・ できている子どもにもっと声掛けをしてあげると良かったかと思う。
- ・ 担任の先生が子どもたちに自分を紹介してくれて、子どもたちが「K先生」と呼んでくれた。かつての先生になりたいという夢が実現できた。
- ・ 1年前に担当した子どもから「M先生！」と声をかけられてうれしかった。また、3年前に担当した4年生からも声を掛けてもらった。
- ・ 孫と接するような心境で楽しんだ。
- ・ またそのうちに子どもたちと会えることを楽しみにしている。

④担任とのかかわりについて

- ・ 先生の手、目の届かないところに手を貸してくださいと言われて安心した。
- ・ 彼を見ていてくださいという先生からの一言では、どう対処していいかわからず戸惑った。
- ・ 先生の邪魔にならないように反対側において、先生が対応していない子どもを見るようにした。
- ・ 近くに住んでいるので、いつでもお手伝いに来ますと先生に伝えたら、喜んでいただけた。

⑤新入生支援活動について

- ・ 避難訓練や健康診断など忙しい日もあり、先生一人では大変だと実感した。
- ・ 子どもたちの1年生だというプライドを大切にしたいと思った。
- ・ 見守りに徹した。かつての自分が経験した小学校時代と違うと感じた。
- ・ 教室内でお子さんを見ていたときにケガをした。どこまで見られるのか疑問に思った。
- ・ 支援には同じクラスに入ることがいいと思った。

(2) 校長先生から

我慢することや他人に合わせる事が苦手な子どもが多くなっているという状況の中、担任にとって重要な時期である入学直後の時期にサポートしていただける存在は大変ありがたいと、各校の校長先生からまず感謝の言葉があった。

子どもたちは人と触れ合うことに興味を持っている年頃のため、いろいろな年代、性別の人とふれあう機会が大切で、ボランティアの役割や効果として、子どもにとって担任とは違う存在として良いクッションとなっていること、緊張と不安な気持ちを受けとめてくれる存在になっていることなどがボランティアの存在意義としてあげられた。学校生活の中には、行事、健診と日常的にいろいろな場面があり、今後、ボランティアにはその時々具体的な場を通して経験を積んでいってほしいと望まれた。

また、教員にとっていろいろな人とパートナーシップを組むことは大切なことであり、教室に入る前の情報交換など、いろいろな方の見方や情報は、担任にとって非常に重要なものとなったとの評価を受けた。40人クラスが20人になれば、より丁寧な教育ができると思うが、集団の中で育てていくことを考えるとチームティーチングで「2人の先生」がいることも有意義だと思うという感想もあった。

(3) コーディネーターから(活動総括)

新入生支援活動の実施校が複数になってから、学校ごとに担当コーディネーターが調整し、コーディネーター間で情報を共有しながら活動を進めている。それぞれの学校の違いを受け入れつつ、よりよい活動が展開できればよいと考えている。

今年度も実施校の先生方からは大変感謝されたが、それがボランティアに伝わりにくいとボランティアが自身の活動意義を見失ったり、不安に陥ったりするので注意が必要である。比較的児童が落ち着いていて、ボランティアが自身の必要性を実感しにくい学級があったこともあり、コーディネーターとして配慮に不十分な点があったことを反省している。

課題として取り上げられることが多いのは、教職員とボランティアの打ち合わせ時間の確保やコミュニケーションの取り方である。特に下校時の引率がある学校では、先生が学校に戻る時間が異なることやボランティアの拘束時間が長くなることが放課後の打ち合わせを困難にしていた。始業前や放課後に打ち合わせの時間が確保できない場合の工夫として、始業前に担任から渡されるメモや放課後にボランティアが活動を記録するノートが活用されていた。また、慣れてくるとボランティアから先生に声をかけるタイミングをみつけて話ができたと発言が反省会に出され、ボランティア自身の工夫がよりスムーズな活動につながることも確認された。

昨年度の活動を通じて、支援するクラスを固定する場合としない場合、それぞれにメリットがあることが確認されたが、今年度は全体的な傾向として、ボランティアのクラス固定化を図った。短

期間の活動であり、その中でボランティアはローテーションを組んで数回程度の参加なので、児童と顔見知りになることはもちろん、先生方ともコミュニケーションがとりやすくなるクラス固定の手法は評価できると思う。

給食時に保護者がサポートに入っていた学校では、ボランティアは校長室で給食を取り、担任以外の多くの先生方と交流ができた。先生方との意見交換の場として、活動終了後に茶話会があったらよかったというボランティアからの意見も反省会で出され、自ら関わろうとする意欲の表れと感じた。日々の打ち合わせも大切であるが、子どもたちや教育のことなどについて、学校と地域が話し合える場があることは今後の学校のあり方として期待するところである。

児童から、担任の先生から、校長先生から感謝メッセージをいただき、来年度以降も期待されていることを受け止めつなげていきたい。

V 省察

今年の活動の成果は、去年の2校展開から倍の区内4校で展開したことにある。それぞれの学校で個性や事情があり、いくつかの点において運営の方法に違いがあったが、地域に信頼され、支えられる学校づくりの一旦を担うという活動目的は、どの学校の活動でも一貫して維持することができた。例えば、ボランティアが単なるお手伝いではなく、活動がより主体的かつ効果的であるために、打ち合わせ時間の確保、担任からのメモや連絡ノートの活用などの工夫がなされた。これは、従来の学校の運営にはない、学校と地域の協働という互恵的な関係のあらわれであると考えている。

また、地域で子どもを育てるために私たち地域住民は、どのように学校に関わればよいのだろうか。ボランティア個人にとって、この活動は生涯学習であることは間違いないが、単に自分自身の満足感だけでなく、一人の大人として責任をもって関わることも大切である。活動後の意見交換会では、「どのように子どもに関わってよいのか自信がなかったが、回数を重ねるごとに子どもの様子を見ながら関わることもできた」という趣旨の発言が多かった。これはまさにボランティアが学校教育と社会教育両面へ責任をもって関わろうとする姿勢の表れに他ならない。社会がますます複雑・多様化するなかで、学校は様々な課題を抱えている。このような状況の中で、これからの教育は学校だけが役割と責任を負うのではなく、地域との連携のもとに進められていくことが不可欠ではないだろうか。

ボランティアによる新入生支援活動は、学校と地域が連携して取り組む教育活動のひとつの実践であるが、その意義や理論においてまだ整理されていない面がある。今後、取り組みの広がりが予想されるなか、毎年の実践をもとに新たな関わりを創造していきたいと考えている。

以上



平成21年度新入生支援活動記録

発行日 平成21年8月31日
編集・発行 あおば学校支援ネットワーク
TEL (070)6974-0184
Email info@aobaschoolsupport.net
HP <http://www.aobaschoolsupport.net/>

無断転写禁止